

研究教育業績（過去5年間）

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文]

国際誌

- 1) Kamata Y., Kambe T., Chiba T., Yamamoto K., Kawakami K., Abe K., Taguchi K, Paclitaxel induces upregulation of transient receptor potential vanilloid 1 expression in the rat spinal cord. *International Journal of Molecular Sciences*, 21 (12), 4341 (2020) (査読有)
- 2) Terumasa Chiba., Toshie Kanbe., Ken Yamamoto., Kazuyoshi Kawakami., Kyoji Taguchi., Kenji Abe, Vincristine Increased Spinal Cord Substance P Levels in a Peripheral Neuropathy Rat Model. *Drug Chem Toxicol*, 3 (1), 1-5 (2020) (査読有)
- 3) Akiko Chukyo., Terumasa Chiba., Toshie Kanbe., Ken Yamamoto., Kazuyoshi Kawakami., Kyoji Taguchi., Kenji Abe, Oxaliplatin-induced changes in expression of transient receptor potential channels in the dorsal root ganglion as a neuropathic mechanism for cold hypersensitivity. *Neuropeptides*, 67 (2), 95-101 (2018) (査読有)
- 4) Terumasa Chiba., Yusuke Oka., Hiroya Sashida., Toshie Kanbe., Kenji Abe., Iku Utsunomiya., Kyoji Taguchi., Vincristine-induced peripheral neuropathic pain and expression of transient receptor potential vanilloid 1 in rat. *Journal of Pharmacological Sciences*, 133 (4), 254-260 (2017) (査読有)

邦文誌

- 1) 千葉 輝正、出雲 信夫、茅野 大介、宮館 祐子、松上 拓矢、山之内 義弘、加藤 真介、渡邊 泰雄：高脂肪食摂取マウスにおける内臓脂肪の経日的増量測定：小型動物用 CT 測定装置を用いて。応用薬理 97(1/2) 27-32 (2019) (査読有)

[著書]

- 1) 千葉輝正(分担)、基本を学ぶ看護シリーズ4 くすりの基礎を知る、東京化学同人、90-92、176-189、190-197 (2020).

2. 主な学会発表

[国内学会]

- 1) 平塚彩優美, 神戸敏江, 千葉輝正, 齋藤俊昭, 田口恭治, 阿部賢志, 1-benzyl-1,2,3,4-tetrahydroisoquinoline (1-BnTIQ) がマウスの脳神経細胞に及ぼす影響—*in vivo* における評価—, 日本薬学会第140年会, 3月, 京都 (2020)
- 2) 平澤真帆, 千葉輝正, 齋藤俊昭, 田口恭治, 阿部賢志, Psilocin がマウスおよびラットの線条体モノアミン含量に及ぼす影響, 日本薬学会第140年会, 3月, 京都 (2020)
- 3) 白石由菜, 神戸敏江, 千葉輝正, 齋藤俊昭, 田口恭治, 阿部賢志, マウスの MPTP 誘発 Parkinson 病様症状に対する 1-benzyl-N-propargyl-TIQ の作用, 日本薬学会第140年会, 3月, 京都 (2020)
- 4) 関佳奈子, 千葉輝正, 神戸敏江, 田口恭治, 阿部賢志, 坐骨神経結紮痛覚過敏モデルマウスの神経科学的評価—脊髄における変化—, 日本薬学会第139年会, 3月, 千葉 (2019)
- 5) Lynn Yoshida, Sei Yu, Mami Kikegawa, Yuki Sakai, I-Jung Lee, Kaoru Umehara, Kunio Ishii, Jiro Kanto, Yu-Ju Ku, Terumasa Chiba, Naoto Uramaru, Nanae Itokazu, Kazunori Anzai, Kiyomi Sadamoto, The international training program for health professions from the Department of Pharmacy, 日本国際保健医療学会学術大会第33回年会, 東京 (2018)
- 6) 和田重雄, 木村道夫, 齋藤博, 小川晴久, 亀卦川誠也, 根岸新一, 足立哲也, 新井利次, 山崎敏彦, 大野元彦, 田端健治, 福嶋仁一, 千葉輝正, 中村有貴, 佐藤卓美, 日本薬科大学における基礎学力養成のための取り組み2—基礎学力向上プログラムの実践と評価—, 薬学教育学会大会第3回, 東京 (2018)
- 7) 齋藤博, 岡村祥太, 石井優大, 市原里沙子, 稲葉由華, 寺田大貴, 海野由希子, 和田重雄, 木村道夫, 千葉輝正, 中村有貴, 小川晴久, 亀卦川誠也, 根岸新一, 足立哲也, 新井利次, 山崎敏彦, 大野元彦, 田端健治, 福嶋仁一, 松田佳和, 佐藤卓美, 日本薬科大学における基礎学力養成のための取り組み—基礎学力養成プログラムの実践と評価—, 薬学教育学会大会第3回, 東京 (2018)
- 8) 安部 望里, 石井 汰王, 千葉 輝正, 小林 賢, 脇 能広, 高校生を対象とした薬物乱用に対する意識調査, 日本薬学会第138年会, 3月, 金沢 (2018)
- 9) 千葉輝正, 松永栄智, 岡裕介, 神戸敏江, 川上和宜, 田口恭治, 阿部賢志, Vincristine 誘発による末梢神経障害に関する検討 —Substance P の影響—, 日本薬学会第138年会, 3月, 金沢 (2018).
- 10) 齋藤博, 岡村祥太, 千葉輝正, 中村有貴, 足立哲也, 新井利次, 小川晴久, 根岸新一, 山下裕, 亀卦川誠也, 杉田一郎, 山崎敏彦, 野澤直美, 木村道夫, 佐藤卓美, 薬学部における低学年のためのアクティブラーニングの実践, 日本薬学会第138年会, 3月, 金沢 (2018)

3. その他特筆すべき研究業績

特になし

Ⅱ. 教育業績

1. 担当授業科目

2021年度

- 1) 遺伝子・免疫実習 (3年)
- 2) 薬理・薬物治療実習 (3年)
- 3) 実務事前実習 (4年) 2コマ
- 4) 薬理学特論 (3年) 1コマ

2020年度

- 1) 遺伝子・免疫実習 (3年)
- 2) 薬理・薬物治療実習 (3年)
- 3) 実務事前実習 (4年) 2コマ
- 4) 薬理学Ⅲ (医療ビジネス薬科学科・4年) 2コマ

2019年度

- 1) 遺伝子・免疫実習 (3年)
- 2) 薬理・薬物治療実習 (3年)
- 3) 薬学総合演習Ⅰ (4年) 1コマ
- 4) 薬学総合演習Ⅱ (6年) 1コマ
- 5) 実務事前実習 (4年) 2コマ

2018年度

- 1) 遺伝子・免疫実習 (3年)
- 2) 薬理・薬物治療実習 (3年)
- 3) 薬学総合演習Ⅰ (4年) 1コマ
- 4) 薬学総合演習Ⅱ (6年) 2コマ
- 5) 薬学体験学習 (1年) 1コマ
- 6) 実務事前実習 (4年) 2コマ

2017年度

- 1) 遺伝子・免疫実習 (3年)
- 2) 薬理・薬物治療実習 (3年)
- 3) 薬学総合演習Ⅰ (4年) 2コマ
- 4) 薬学総合演習Ⅱ (6年) 2コマ
- 5) 薬学体験学習 (1年) 1コマ
- 6) 実務事前実習 (4年) 2コマ

2. その他特筆すべき教育業績

2021年度

- 1) 高校生生化学実習（令和3年10月）

2019年度

- 1) 高校生薬理学体験実習（令和元年8月）

2018年度

- 1) 理科教員のための実践教養講座（平成31年1月）

2017年度

- 1) 人体解剖セミナー（日本大学医学部機能形態学系生体構造医学分野協力）